

中学2年生が「高志学」校外研修を行いました

令和6年5月16日（木）に、2年生が鯖江の地で校外研修を行いました。午前中は、産業・観光、食・農業、IT・オープンデータ、ウェルネス・福祉、防災・インフラ、交通・モビリティの6分野に分かれて各々の研修先を訪れました。研修先では、生徒自身が新聞記事から見つけ出した社会課題に対して、問いや仮説を設定したことを説明してヒントをいただき、それぞれの分野で現在行われている取り組みについて学んだりしました。午後からは、班ごとに鯖江の町を歩きながら歴史や伝統だけでなく、現在進行中の地域活性化プランに触れたりしました。

午前

【産業・観光】

めがねのフレームだけでなく防災笛をはじめとする小物雑貨を製造しているプラスジャック株式会社を訪れました。生徒は、産業分野の課題として「人口流出や後継者不足」を挙げ、福井の魅力を発見する方法を発表しました。研修先からは、「自分の思いだけでなく、相手が何を望んでいるかを知ること」が解決につながることを教わりました。



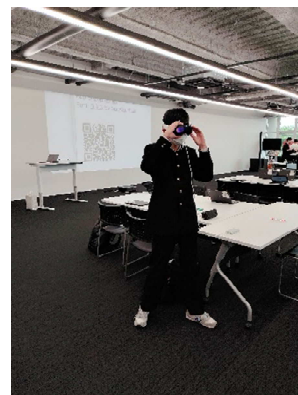
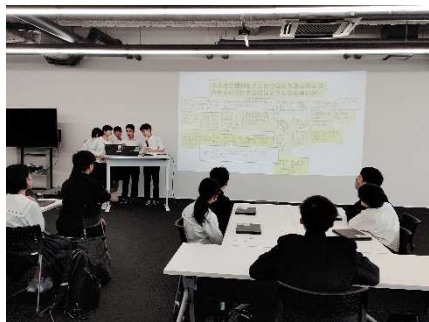
【食・農業】

食品ロスゼロに近づくために、廃棄ロスの悩みを抱えた日本全国の農業関係者から野菜を集め、低価格で提供しているエクネス株式会社を訪れました。生徒は「アレルギーがある人でもおいしく食べられて、フードロスも減らせる料理をどう作っていくか」という課題を挙げ、データや今ある商品を参考に福井産で作ることができる料理のアイデアが出されていました。



【IT・オープンデータ】

より豊かな社会を実現するために利用者目線のソフトウェアを提供している株式会社 jig.jp を訪れました。生徒は、「福井の良さをアピールしたり、働き方を改革に利用したりするためのIT利用やソフトウェア開発のしかた」を課題として挙げました。研修先からは、自分でデータを加工する方法やセキュリティを保证するための公開鍵暗号の知識を学びました。



【ウェルネス・福祉】

SDGsの理念に基づき、鯖江市が住みやすい町となることを目指す、さばえSDGs推進センターを訪れました。生徒は、「育児を安心して行える支援制度」や「男女間での仕事の差異」についての問題意識を挙げていました。研修先からは、ウェルビーイングを目指して鯖江市が取り組んでいるジェンダー問題や環境問題についての具体例が紹介されました。



【防災・インフラ】

防災への意識づけと小中学校で防災教育を行っている、防災士ネットワークさばえを訪問しました。生徒は、「災害対策が想定どおりにいけないこと、防災教育の不十分さ」を課題として挙げました。訪問先からは、防災教育の現状や地域住民の意識を高めるための取り組みが紹介されました。



【交通・モビリティ】

北陸新幹線の福井延伸を機に開業した、株式会社ハピラインふくいを訪問しました。生徒は「公共交通機関の利用促進、渋滞や混雑を解消するための方法」を課題として挙げました。研修先からは、開業間もない会社の取り組みを紹介しながら生徒の課題解決に対するヒントが示されました。



午後

午後は5人グループで、事前に計画を立て、鯖江の町のスポットを散策しました。昔ながらの古い町並みや「すりばちやいと」で知られる中道院、弥生時代から古墳時代に築かれたとされる王山古墳群、レッサーパンダが有名な西山公園など歴史や文化を十分に味わいました。また、全てのグループが中継地点としてHana 道場を訪れ、地域活性化プランをつくるための未来創造型思考を体験しました。「世界一楽しい歯医者になるには?」、「じゃがいもが世界を救うには?」といった正解のない問いについて音楽を聞きながら考えました。どの生徒も質より量を重視するブレインストーミングでアイデアを出すことを楽しんでいました。頭も体も思う存分に使う研修となりました。

